



## 施設園芸技術指導士としての抱負

早川 昌希 (株)エドビ 埼玉中央営業所

私は、農業用資材全般を取り扱っている(株)エドビで入社以来、東京エリアで営業活動を行ってまいりました。

エドビでは農業用マルチのような消耗品から、農業用施設まで幅広く商品を生産者様にお届けしています。私の担当エリアの東京では、限られた栽培面積で安定した収益を上げたいというニーズが生産者様の課題となっております。安定した収益を目指すためには、農業用施設を使った栽培が重要であり、私は主に農業用施設的设计、提案を生産者様に行っております。

近年の農業用施設は様々な要素を総合的に考慮して設計しなければならないと感じています。まず、農業用施設の耐候性についてですが、近年の天候は今までは考えられなかったような台風、雪が増えています。これに伴い、農業用施設の被害の声も以前より多く聞こえてきます。生産者様が安定した収益を上げるために今まで以上に耐候性を重視した設計が必要だと感じています。現状、資材価格の高騰もあり、ただ単に鋼材を太くするという視点の対応だけではなく低コストで効果的な設計を心掛けなければいけません。

また、近年の農業用施設はカーテン資材、暖房機設備、CO<sub>2</sub>発生装置、養液栽培システム、循環扇、ミスト装置、複合環境制御盤など多様な設備を搭載することが多くなっています。これだけの設備を設置するわけですから、単純な初期費用、作物の収量だけでなく、日々

の作業性、ランニングコスト、そして何より大切な栽培に関する知識を深めなければ、生産者様に本当の意味で益ある農業用施設の提案はできないと感じておりました。そこで今回、施設園芸技術講座を受講し、施設栽培に関する知識を深め、指導士の資格を取得することができました。

資格を取得する前の私の販売方法は、生産者様のご希望を伺って販売するという受け身のお話が多くなっておりました。しかし今回、施設園芸技術講座、指導士試験を通じて今まで私の中になかった施設栽培の知識を得る事ができ、私の方から圃場の形状や希望の栽培作物など、生産者様に合った設計、提案が出来るようになってきたと感じております。今後も継続して研鑽し、生産者様の収益向上を目指していきます。

現在、スマート農業の推進により様々なシステムの考案の声が聞こえてきます。私も生産者様とこれまで以上に栽培に関するお話が出来るようになったことで、農業界の発展に携われるようなシステムの考案をしていきたいと思えます。

そのためにはメーカー様、生産者様、農業試験場の方々など、広く農業界に携わる皆様と協力していかねばならないと感じています。今後とも皆様、ご意見、ご要望がございましたらご相談ください。それを形にするために、私も日々努力し邁進してまいります。共に農業界全体を盛り上げていきましょう。